令和８年度第５回霞ヶ浦自然観察会実施結果

日　時：令和８年１０月２４日（土）　９時３０分～１２時３０分

場　所：かすみがうら市加茂の雑木林　通称「どんぐり山」（霞ヶ浦市民協会管理地）

講　師：糟谷大河氏（慶應義塾大学経済学部生物学教室教授）

目　的：

キノコは樹木と共生して栄養分を交換し合ったり、枯れ木や葉っぱを分解したり、森の生態系で大切なはたらきをしています。今回は、かすみがうら市加茂にある雑木林を散策し、キノコを探しながらキノコの生態や他の生きものとのつながりについて学びました。

参加者：22 名（大人 14、子ども名８）

担当職員：６名、**パートナー**：８名

結　果：

霞ケ浦環境科学センターからバスで 10 分ほど移動したところにある、霞ヶ浦市民協会が管理する雑木林でキノコの観察会を行いました。

現地に着くころには、早朝に降っていた雨もほぼ上がり、参加者もスタッフも一安心。まずは講師から雑木林の成り立ちやキノコ探しのポイントについて説明があり、いよいよキノコ探しがスタートしました。最近、雨が降っていなかったので乾燥した林の中でキノコがどれだけ生えているか不安でしたが、参加者が次々とキノコを見つけました。落ちた枝に生えたカワラタケやクロコブタケ、クヌギの切り株についたサルノコシカケやマンネンタケなど、講師がすぐ名前と特徴を解説してくれました。

思う存分キノコ採りをした後、センターの研修室に戻って、採ってきたキノコをじっくり観察しました。まずは、机に並べたすべてのキノコの名前を講師が教えてくれました。その数なんと 40 種。その中から主なキノコについて、実体顕微鏡で拡大した映像を見せながら詳しく説明してくれました。コフキサルノコシカケ裏面の胞子が飛び出る穴や、アラゲキクラゲの表面の毛、クリのイガの内側に生えた画鋲のような形の小さなクリノイガワンタケなど、拡大したキノコの世界にみんな興味津々でした。また、講師がスッポンタケやナガエノスギタケを用意してくださり、その臭いをかぐ貴重な体験もさせていただきました。

身近な雑木林に多様なキノコが見られ、菌根を作って木の成長を支えたり、枯木や落ち葉を分解して土に戻したり、虫のエサになったり、豊かな生きものの世界をキノコが支えていること、キノコの奥深い世界が実感できた観察会でした。

講師の糟谷先生はじめ、参加者の安全な活動を支援してくださったパートナーの皆さん、大変ありがとうございました。

雑木林で見られたキノコ

１　アセタケ	16 クロコブタケ	31 ニセショウロ属の１種 （Scleroderma separatum） 和名なし、日本未報告種
２　アラゲカワラタケ	17 ケカゴタケ	32 ネンドタケ
３　アラゲキクラゲ	18 コフキサルノコシカケ	33 ハカワラタケ
４　アワタケヤドリ	19 シロヒナノチャワンタケのなかま	34 ヘクソカズラさび病菌
５　ウズラタケ	20 スエヒロタケ	35 ホウライタケのなかま
６　ウラベニガサのなかま	21 チウロコタケ	36 マンネンタケ
７　エリマキツチグリ	22 チャウロコタケ	37 ミダレアミタケ
８　オロシタケ	23 チャワンタケのなかま１	38 ミノタケ
９　カイガラタケ	24 チャワンタケのなかま２	39 モミジウロコタケ
10　カワラタケ	25 チリメンタケ	40 ロウタケ
11　キイロウラベニガサ	26 テングツルタケ	
12　キウロコタケ	27 ドクベニダマシ	
13　キクラゲ	28 ニクイロアワタケ	
14　クジラタケ	29 ニクウスバタケ	
15　クリノイガワンタケ	30　ニクハリタケ科の１種、 Loweomyces fractipes 和名なし、日本未報告種	

糟谷先生が持参し紹介してくれたキノコ

□ スッポンタケ	□ナガエノスギタケ	□オオワライタケ

令和８年度第５回霞ヶ浦自然観察会



最初に、雑木林の成り立ちと採集方法について解説



みんなで一斉にキノコ採り開始！



クヌギの切り株をぼろぼろにするキノコたち



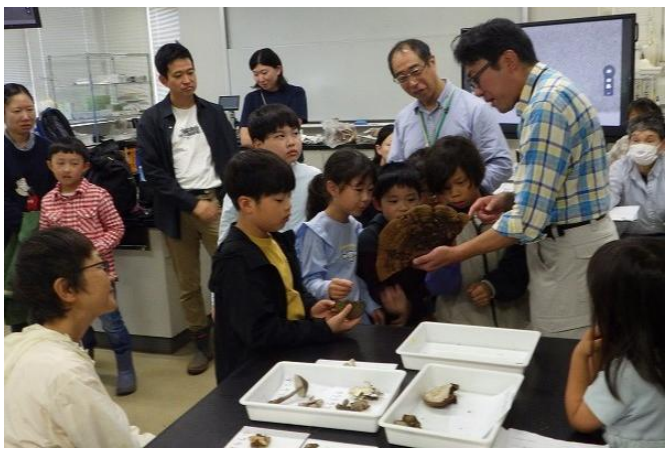
クリのイガにだけ生える小さなクリノイガワンタケ



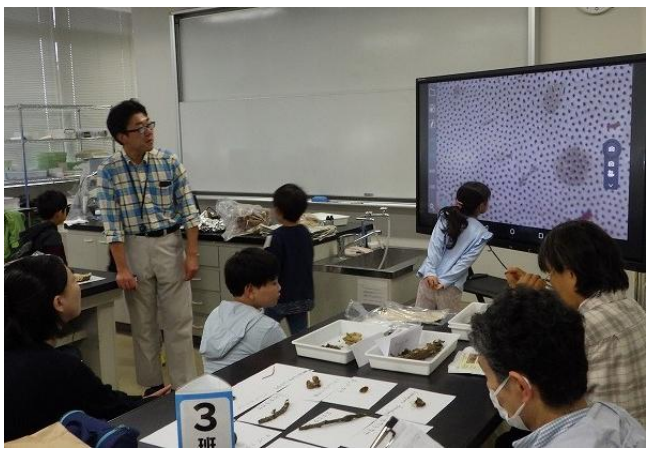
研修室でのキノコ解説のようす



名前をメモして、キノコの展示会のよう



コフキサルノコシカケの裏側にみんなで注目！



実体顕微鏡で拡大したコフキサルノコシカケ（画面）
胞子が飛び出る孔がいっぱい！